



鬼島一彦

MTCJAPAN 取締役



自己紹介

1982年生まれ。看護専門学校を卒業後、関東で7年間手術室看護師として医療機関に従事。昔から国際交流に興味があり、国境なき医師団などの国際医療活動に従事したいという目標で、スペイン留学、ウクライナ留学をする。留学時代に感じたロシア語圏の医療水準の低さに対して、自分なら何かできるのではないかと一念発起し2012年にロシア現地法人 MTCJAPAN を設立しサンクトペテルブルグで日露プロジェクトを様々運営している。ロシアで唯一の日露医療コーディネーターとして領事館、保険会社とも連携し、活動をしている。

会社紹介

MTCJAPAN(M:メディカル T:トレーディング C:コンサルティング)の3つの分野で日露のprojectをロシアサイドから運営する現地法人。スタッフ全員が日本語、英語、ロシア語を操り、正確で迅速な対応をすることのできる数少ない現地法人。

<<基本情報>>

MTC Japan L.L.C.
190031 Saint Petersburg, Moskovskiy Prospekt, 3a,
Lit.B, office 501 Saint-Petersburg RUSSIA
CEO Natalia SHARYGINA
COO Kazuhiko KIJIMA

<<会社の主な実績>>

- 2012年より：JTBと提携し、ロシアのメディカルツーリズム事業展開
- 2013年より：ロシアマーケティングリサーチ、輸出入に関するサービス開始
- 2014年：ソチオリンピック現地対応（保険会社提携医療対応、高橋大輔選手密着取材コーディネートなど）
- 2015年より：日系飲食店ロシア進出コンサルティング、マネジメント
- 2016年より：現地邦人医療サービス開始（保険会社提携）



2009年、妻との出会いはインターネット

英語を独学していた私は国際交流のサイトに登録し、様々な国の人と文通やチャットをしていた。2009年の夏に現在妻である Natasha が日本に短期留学に来た際に交流サイトで知り合った。友達として日本の街を案内したりしているうちに交流が深くなり、数年後に再開した際に交際を決める。ウクライナの留学時に同棲し、その後2013年に日本で結婚。共に MTCJAPAN を立ち上げる。2015年には長男の尊を授かり、今に至る。出会いのきっかけはなんでも良いと思います。重要なのはそれを繋いでいく想いだと思っています。

国際結婚って大変？

国際結婚自体特に特別なものとは感じていません。ある部分では同じ国の人じゃないということお互いの価値観を尊重し合える（しょうがないなと思える部分も含め）と思います。

私が思うとても大事なことは、言葉でもなく、やはり相手の生活背景や価値観を理解する努力をお互いに怠らないことです。ロシアは日本よりも更に家族の付き合いが親密なことが多く、相手の家族との良好な関係を築くことも大切なことです。ロシア人は英語のできる人が日本並みに少ないので、コミュニケーションに困ることも多々あるかも知れませんが、伝えたい、交流したいという思いは言葉以外でも相手に伝えられるものです。日本に住んで生活する場合、ビザなどの問題はそこまで難しくありませんが、ロシアに住む場合はとても複雑で煩雑な作業があります。国際結婚で大変な所といえばこの書類関係でしょうが、そこまで心配することは何もありません！

ロシア人女性

ロシア人女性はとても働き者です。ロシアの社会は女性が支えていると言ってもいいくらい。感情表現豊かな人たちが多いです。ロシア人女性はよりよい生活環境や可能性を求め、海外に出ることに対しては抵抗のない方が多いです。

ロシア人女性における日本人男性って？

ロシアでは日本に対して良いイメージを持っている人が圧倒的に多いです。そこはプラス。ロシアではアジアからの移民も多く、西欧に比べてアジア人の受け入れは寛大な方ですが、やはり恋愛対象として見てもらえるには外見以外の部分がとても重要となります。ご自身の得意なことや趣味などを中心に、友達から恋愛に発展するような流れが一番自然体です。また、日本人は「何を考えているかわからない」といわれることが多いです。特に相手には自分の気持ちを素直に伝えるように心掛けることが理解を深める重要なポイントだと思います。

